

上海から

明朝体活字がやってきた

小宮山博史

全長六、三〇〇キロメートルの大河揚子江に注ぐ黄浦江の西岸に上海市が広がっています。

清朝政府は阿片戦争の敗北によってイギリスに香港を割譲し、上海を対外通商港として開港せざるをえませんでした。イギリスに続いてアメリカ・フランスも上海を対外通商港とし、やがて自国の居留地の権益を守るために警察権・行政権を握ります。租界そかいの誕生です。現在上海の観光スポットとして多くの人々の目をひきつける外灘バンタウに建ちならぶ建築群は、上海に展開した外国資本によって一九二〇年代中頃までに作られたものです。

この建築群から南へすこし下ったところの中華路に小東門という名のバス停があります。かつて楕円形の城壁で囲まれていた上海城の東側の門の名前ですが、この小東門から東へ三〇〇メートルほど歩くと、黄浦江と中山東二路に囲まれた小さな台形の土地にぶつかります。ここはフランス租

界の東南端にあたり、フランス警察小東門派出所が設けられていました。

この派出所の左に美華書館という名前の印刷・出版所が建っていました。美華書館は北米長老教会が作った印刷・出版所で、正式名は American Presbyterian Mission Press とつきます。美華書館は一八六〇年一二月寧波から上海に進出し、中国内地でのキリスト教伝道のために大量の漢訳聖書や布教用小冊子などを印刷・出版していきます。この美華書館をはじめその他の伝道会印刷所が印刷した書籍のほとんどが明朝体活字で印刷されていることは注目に値します。欧文書体の基本書体がローマン体であることから、それに近いデザインである明朝体が選ばれたのであろうと想像できますが、

その他に、経験と感性が不可欠な毛筆楷書が書けない人でも、明朝体はわりあい容易にデザインできるといふ側面もあったからではないかと私はひそかに考えています。

では誰が短時間に大量印刷を可能にする近代活版印刷技術にこの明朝体を組みこんだのでしょうか。たしかに明朝体というスタイルは中国人が木版印刷用書体として作りだしたものに違いありませんが、工業製品としての金属活字にいち早く明朝体を採用したのは実は中国人ではなく、ヨーロッパ人でした。ヨーロッパでは早くから東洋への興味や関心が高く、また貿易活動や植民地経営などから現地の言語の活字化が進んでいました。明朝体漢字活字もその流れの中で生まれたのです。

一八六八年、日本では明治元年ですが、上海で活動するアメリカメソジスト監督教会の宣教師が創刊した漢字雑誌に『教会新報』^{★四} というのがあります。いろいろな分野の記事や世界のニュース、各教会の活動などその内

☆註一……明朝体 印刷・表示用の基本書体。縦線は太く、細い横線にはウロコと称する三角形をつける。毛筆楷書を水平垂直構成にして、点や曲線（ハライ）の形を定型化した書体。明朝体という名称の起源とその名称が初めて使われた年代は不明。「東京日日新聞」明治八（一八七五）年九月五日号の本木昌道追悼記事には「明朝風」という表現があり、これが最も早い使用例ではないか。日本の文字組版のほとんどはこの書体による。

☆註二……ローマン体 欧文書体の基本書体。古典ローマ文字に範をとった書体で、縦線が大きく線の上下辺には左右に突き出たセリフがつく。一五世紀後半に印刷用書体として出現。制作年代と形態から通常はヴェネチアン・オーダーローマン・トラデザインショナル・モダンローマンの四種類に分類される。セントール・ギヤラモン・バスカービル・キャスロン・デイドール・ボドニなど名作が多い。

☆註三……楷書体 印刷・表示用書体の一種。毛筆楷書を活字化したもので、最も早く制作された楷書体は明治八（一八七五）年発表の弘道軒清朝体であろう。明朝体やゴシック体という基本書体を補完する書体としての役割が主で、本文用書体として使われた歴史はほとんどない。楷書体の一種に教科書楷書体がある。これは小学生用教科書に使われる楷書体で、児童の筆記文字と変わらないように字形がデザインされている。また楷書体の名称の一つに正楷書体があるが、これは上海の漢文正楷印書局が作った楷書体の名称で、書体分類の一項目には相当しない。

☆註四……活版印刷 一五世紀中頃ドイツマイントツの人グーテンベルクによって発明されたという。鋳造した金属活字で文章を組み、インキを活字表面に塗り、紙を被せて印刷機でプレスして印刷物を作る。グーテンベルクの発明したこの活版印刷術は発明と同時に完成した技術であって、システムは現在にいたるまで基本的に変わっていない。日本にヨーロッパの活版印刷術が伝わったのは天正一八（一五九〇）年で、天正遣欧使節は印刷機や印刷機材を携えて帰国し、翌一九年には早くも印刷にかかっている。これらは「翌一九四年のさりしたん追放令によって西欧式の印刷活動は終息し、次に西欧印刷術が日本に入るのは二五〇年後の明治二（一八六九）年である」。

☆註五……木版印刷 活字版にたいして整版または一枚版ともいう。黄楊・桜材などに手書きの版下を裏表逆にして貼り、彫刻刀で陽刻（凸刻）したのち墨をつけ上に紙をおいてバレンで摺る印刷法。書籍や絵画な

容は多彩で、雑誌形式の新聞と違っていただけだったらよろしいでしょう。この『教会新報』の中に二ページを使った美華書館の活字販売広告が出ています。

書体はすべて明朝体で、種類と文字数は次のとおりです。

一号	Double Pica	二四ポイント	五〇字
二号	Double Small Pica	二二ポイント	二種類各六六字
三号	Two-line Brevier	一六ポイント	一〇三字
四号	Three-line Diamond	一三・五ポイント	一四二字
五号	Small Pica	一一ポイント	一五二字
六号	Brevier	八ポイント	九六字

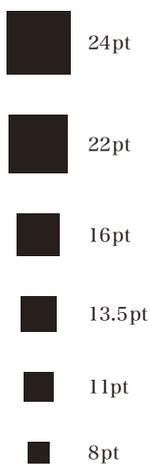
一号から六号までの号数表示は、のちに日本の活字^{☆註七}サイズとなった号数の名称ではなく、中国語でいう順番つまり一番目二番目という意味だと思われます。各号にたいするアメリカでの名称とポイント数値はこの広告にはありませんが、大きさを実感していただくために号数の下に入れておきました。この時期に見出しから本文、注釈までに対応できるサイズの明朝体活字が揃っていたことに驚かされます。ではこの六サイズ七書体の制作者は誰なのでしょう。読者の皆様は「もちろん中国人が作ったのさ」とおっしゃると思いますが、残念ながらはずれです。

★図一……『教会新報』に掲載された美華書館活字広告、一八六八（明治元）年二月。「四七頁参照」

の印刷に使われる。書籍では一枚の板に見開き二頁（一丁と二丁）を彫刻し印刷し、印刷した一丁づつを袋とじにして綴じる。中国でこの印刷法が本格的になったのは八世紀初めであろう。わが国で木版印刷が見学できる場所として、京都宇治の隣の黄檗駅の近くにある黄檗山万福寺宝蔵院をあげることができ。ここでは今でも重要文化財の指定をうけている鉄版版一切経の版木六万枚を使って印刷がおこなわれている。

☆註六……金属活字 鉛を主体とした錫・アンチモン^{☆註七}の活字合金で鑄造した四角い長方体の上面に、逆向きで文字や記号が凸の状態で浮き出ている。行間や字間に使うインテルやクワタを組み合わせて文字版面を作る。活字の高さはJISの規格では23.45mmである。李朝鮮では一五世紀後半以降銅活字が大量に作られ各種の書籍を印刷した。現存するもっとも早い金属活字による印刷本はフランス国立図書館が収蔵する『白雲和尚抄録仏祖直指心体要節』で、「宣光七年丁巳七月 日清州牧外興德寺鑄字印施」と記されている。宣光七年は一三三七年であり、清州はソウルから南へ車で二時間はどの現清州市である。これを記念する清州古印刷博物館は興德寺跡に建てられている。李朝活字は活字が低く、底は窪んでいて固定材の蜜蝋をしつかりとくわえる役目をしている。

☆註七……活字 通常「活字」というと金属活字を想像するが、写植書体もデジタルフォントも活字と呼んでよい。活字の性格は繰り返し使うことができ、どこで使われてもいつも同じ字形であることが基本であるとするならば、金属であろうとフィルムであろうと点の集合であろうとそれは文字生成のシステムの違いであって、活字としての役割はなんらかわりがな。活字は中国語で、英語では Movable Type ともいう。ともに活字の性格をうまく表現しているのではなからうか。



事特恐人不屑就耳若屑就則基得所造亦合法處家更多善方將無限病患消於無形矣較之風水之說不尤為確鑿乎取諸邇者富不鄙余言也

IX 地震

美國來信云本年九月十三日即中國本年七月廿七日南亞美利駕之毗盧國並厄瓜多爾國地方相近火山有地震之事三萬二千餘人震死震去貨物房產等值銀三十二萬洋由城內逃出三十萬餘人於郊野可憐於今無屋棲身無食充腹所以各外國聞此信息發出慈心捐資郵憐當地震時地下有聲恍似馬車行過海水凸出直如波浪冲天有額理加地方似上海洋場兩賠大地震之後一屋全無海邊之船被大浪頭冲送至最高之岸有一美國最大之船有貨一百八十萬元本錢於上連船帶貨並人皆被掀翻於岸又呵里基霸地方被此地震全行將房屋人民貨色震落盡淨又有哥多加喜地方一震之後變成汪洋大水之區也外仍有二十城邑房屋皆震倒盡只餘一 天主堂而已此等之處係近海邊易於通信據聞毗盧國之南統行震沒矣並云 英國領事亦死於內此地震之事常年彼處原有克未曾如此之凶而與本新報前幾次所上三得惟枝羣島臨近同此地震現今輪船來信又云新金山之地崩土裂計長七十五里闊九尺其中折耗人民房屋貨色金銀未知其數後有細信再上可也

XI 新聞

大英第二太子名愛栢德自上年出都至各屬國遊歷今歲到印度等國茲又由 英國開行欲到中國於途中是處優游大約回國必由東洋至金山美國而歸矣若到上海時未知外國官如何儀註迎接中國官何以相待見過方知也

美華書館告白

啓者本館現有新鑄大小中國鉛字計六號出賣每號印出字樣註明價目數目於左欲賜顧者一

第一號每磅計洋

我父在天者願爾名聖爾
國臨格爾旨得成在地如

XI 新聞

大英第二太子名愛栢德自上年出都至各屬國遊歷今歲到印度等國茲又由 英國開行欲到中國於途中是處優游大約回國必由東洋至金山美國而歸矣若到上海時未知外國官如何儀註迎接中國官何以相待見過方知也

美華書館告白

啓者本館現有新鑄大小中國鉛字計六號出賣每號印出字樣註明價目數目於左欲賜顧者一見便明其第一號每磅計洋銀六角計數二十九個第二號每磅計洋銀六角計數四十七個第三號每磅計洋銀壹員計數壹百零二個第四號每磅計洋銀壹員貳角五分計數壹百二十八個第五號每磅計洋銀壹員八角計數二百個第六號每磅計洋銀五員計數六百二十個另有第二號鉛字本館業已用過與新字相仿較新字之價格外公道每磅計洋銀五角計數四十二個倘蒙士商賜顧者可請至本館面議可也
倘有來買東洋鉛字外國鉛字暨零星大小等鉛字其價不在此例

同治七年 十一月 日 本館主人啓

教會新報

第一號每磅計洋銀六角計數九十二個

另有第二號每磅計洋銀五角計數二十四個

我父在天者願爾名聖爾國臨格爾旨得成在地如在天焉我儕所需之糧今日賜我免負我者尤母導我於誘

我父在天願爾名聖爾國臨格爾旨得成在地如在天焉我儕所需之糧今日賜我免負我者尤母導我於誘惑乃拯我出於惡蓋國也權也榮也皆歸爾

第二號每磅計洋銀六角計四十七個

我友天爾命堂願爾旨如侯
靖我如印今併呼我儕劈爾
爰於濱援叟天也匍廝侔太
泄惡燈黷我日務併各曠偏
囊勳我所之糧也爾歸焉厦
及璋格成多輔匄主大厭厘

第三號每磅計洋銀一元計一百零二個

我父在天者願爾名聖爾國臨格爾旨得
成在地如在天焉我儕所需之糧今日賜
我免我儕諸負如我免負我者尤毋導我
於誘惑乃拯我出於惡蓋國也權也榮也
皆歸爾爰及世世亞孟
自太初有上帝創造民物天地無不知無
不在無不能真主宰至清潔至矜恤

第四號每磅計洋銀一元二角五分計一百廿八個

我父在天者願爾名聖爾國臨格爾旨得成在
地如在天焉我儕所需之糧今日賜我免我儕
諸負如我免負我者尤毋導我於誘惑乃拯我
出於惡蓋國也權也榮也皆歸爾爰世世亞孟
慈悲真活神可憐我罪人賜落來聖靈感化我
惡心我是無力量善事弗能行雖然改罰落求
天父賜福我許多罪愆求天父赦免救我出苦
楚靠著主耶穌靠耶穌功勞收我進天堂

第五號每磅計洋銀一元八角計一百零二個

我父在天願爾名聖爾國臨格爾旨得成在地
如在天焉我儕所需之糧今日賜我免我儕諸
負如我免負我者尤毋導我於誘惑乃拯我出
於惡蓋國也權也榮也皆歸爾爰及世世亞孟
慈悲真活神可憐我罪人賜落來聖靈感化我
惡心我是無力量善事弗能行雖然改罰落求
天父賜福我許多罪愆求天父赦免救我出苦
楚靠著主耶穌等耶穌再降收我進天堂靠耶
蘇功勞求聽我禱告

第六號每磅計洋銀一元五角計一百二十個

我父在天願爾名聖爾國臨格爾旨得成在地
如在天焉我儕所需之糧今日賜我免我儕諸
負如我免負我者尤毋導我於誘惑乃拯我出
於惡蓋國也權也榮也皆歸爾爰及世世亞孟
慈悲真活神可憐我罪人賜落來聖靈感化我
惡心我是無力量善事弗能行雖然改罰落求
天父賜福我許多罪愆求天父赦免救我出苦
楚靠著主耶穌等耶穌再降收我進天堂靠耶
蘇功勞求聽我禱告

本書院告白

啓者本書院創刊教會新報如有
中國各處教友以及同好者欲買
新報可先寄一年新報之價一元
並寫明名姓寄到上海黃浦邊同
茂洋行轉交林華書院林先生收

代辦保險公司

啓者今有快也保險公司本銀六
百餘萬兩係歸本行在上海代辦
保火險事務 貴客商如有頂好
房屋以及貨物以保至四萬五千
兩爲止或常保或暫保均可其保

黃浦岸同茂洋行告白

啓者本行總爲經手拍賣各色貨
物並代中外客商買賣寄庄貨物
而常有大批花旗澳大利亞俄國
東洋臺灣各處之煤發賣或躉買
或零買或在船或在棧皆可次買

並寫明名姓寄到上海黃浦邊同
 茂洋行轉交林華書院林先生收
 明按次發給新報且買新報之人
 名俟聚有成數亦可於報中刊出
 再者前新報啓中原云湊集十人
 買者外送一張今本館尤恐中國
 教中朋友不裕者多再格外奉讓
 如湊齊四人送到新報價四元者
 可開五人名姓本館發給五張此
 愛人之至意也還有一法或三人
 或四人湊價買之更好三人者三
 人同看四人者四人輪觀亦無不
 便也 林華書院謹啓

房屋以及貨物以保至四萬五千
 兩爲止或常保或暫保均可其保
 價照時價核算又保輪船帆船停
 泊口內或在修理時或在廠起造
 時俱能保如有屯洋藥船上洋藥
 一併保險其公司於一千八百六
 十一年所得利息二十二萬四千
 兩六十四年所得利息六十八萬
 四千兩前年利息一百十四萬九
 千兩 賜顧者來本行面議特此
 佈聞
 同治七年八月十一日
 豐泰洋行啟

東洋臺灣各處之煤發賣或躉買
 或零買或在船或在棧皆可欲買
 者須至本行面議 同茂行啟
 公正火輪船公司告白
 啟者本公司輪船每逢禮拜三日
 晚有一隻由上海開往鎮江九江
 漢口等處沿途碼頭皆可容其搭
 客上下其輪船起卸貨物在法國
 地界黃浦江岸公正棧房門首而
 棧內可以任其 貴客堆存各貨
 極爲便當 本公司啟

教會新報

★四二一

○活字サイズ(号数制) 明治五(一八七二)年以降日本におけ
 る金属活字サイズの呼称。その出自と名称は上海美華書館の
 『教会新報』に掲載した活字販売広告による。美華書館広告は
 「一号」を活字サイズの呼称として使ったのではなく、「一番目」
 「二番目」と大ききの順に番号を振っただけであつた。この順番
 を活字サイズの呼称としたのは、ウイリアム・ギャンブルに教
 えを受けた本木昌造である。本木は一号の上に初号を創設し、
 美華書館では六番目の大ききであつた活字を一つ下げて七号と
 し、五号の下に新たに六号を配した。

日本の活字史では「鯨尺」一分を基本にして大ききを設定し
 たといわれていたが、誤り。美華書館が使用して来たアメリカ
 の活字寸法をそのまま流用したもので、一号は二四ポイント(以
 下印刷物からの測定値で、約3.55mm)、二号は二二ポイント(約
 7.6mm)、三号は一六ポイント(約5.6mm)、四号は一三.5pt(約
 4.8mm)、五号は一四ポイント(約3.7mm)、七号(美華書館
 では六番)は八ポイント(約2.8mm)である。のちにこの号数
 サイズは倍数関係が成り立つように寸法が手直しされたが、金
 属活字の衰退とともに今ではほとんど使用されなす。念のため
 JIS Z 8305-1962『活字の基準寸法』に書かれてゐる号数サ
 イズの名称と寸法を下に示す。

初号…14.76mm 一号…9.224mm
 二号…7.379mm 二号…5.535mm
 四号…4.612mm 五号…3.690mm
 六号…2.767mm 七号…1.845mm
 八号…1.348mm

馬太傳福音書

第一節 亞伯拉罕大關之裔耶穌基督族譜。○亞伯拉罕生以撒
 以撒生雅各雅各生猶大兄弟猶大因大馬氏生法勒士撒拉法
 勒士生以士崙以士崙生亞蘭亞蘭生亞米拿達亞米拿達生拿
 順拿順生撒們撒們娶喇合氏生波士波士娶路得氏生阿伯阿
 伯生耶西耶西生大關王大關王娶烏利亞妻生所羅門所羅門
 生羅波暗羅波暗生亞比亞亞比亞生亞撒亞撒生約沙法約沙
 法生約蘭約蘭生烏西亞烏西亞生約坦約坦生亞下士亞下士
 生希西家希西家生馬拿西馬拿西生亞門亞門生約西亞民見
 徙於巴比倫時約西亞生耶哥尼亞兄弟民徙巴比倫後耶哥尼

新約全書

馬太傳福音書

第一章

★圖二 一号はロンドン伝道会 (London Missionary Society) のサミュエル・ダイア (Samuel Dyer) が活字のもとになる父型の凸刻を始め、ダイアの死後同じ伝道会の宣教師が引き継ぎ、そのあと北米長老会印刷所から転じたりチャード・コール (Richard Cole) によって改良と新刻が続けられ、一八五一年には四、七〇〇

★図二……一号の最初期の使用例。上海の墨海書館が印刷刊行した『馬太伝福音書』字種が足りず木彫活字で不足字を補っている。「蘭」などがそうである。「第一章」の下の「亞」字の右肩にある「二」は六号の使用例である。

字に達していました。父型は原寸の軟鉄に逆字で凸刻されたのち焼きを入れて硬度を増し、それを銅の母型材に打ち込みます。これをパンチドマトリックスといいます。打ち込まれた文字は凹形になり、ここに活字合金を流し込むと活字ができあがります。一五世紀ドイツで活版印刷術を發明したグーテンベルクの製法と同じやり方です。

★**図三** 二号は二種類が掲載されており、一つはやや右上がりの構成が特徴の書体です。これはドイツ人のバイエルハウス (August Beyerhaus) という活字製造業者が一八五九年に完成させたもので、偏^{へん}と旁^{わやう}を別々に作っておいて組み合わせる「分合活字^{ぶんごうかつじ}」というシステムの活字です。制作方法は一号と同じパンチドマトリックス法によっています。もう一つの二号は水平垂直の構成で、現在の明朝体とほとんどかわりません。この書体は一八六八年ごろ完成したと思われませんが、活字のもどになる父型は金属ではなく、活字と同じサイズの木材 (駒^{こま}とい) に彫刻刀で逆字で凸刻されたもので、これを電気メッキ法を応用して母型を作り^{☆註八} (電胎母型^{でんたいぼてい})、そこに活字合金を流し込んで活字を鑄造します。この方法を考えたのは美華書館館長ウイリアム・ギャンブル (William Gamble) です。いままでの活字史や印刷史の本では「ガンブル」と書かれています。★**図四** 三号はフランス王立印刷所の有名な父型彫刻師マルスラン・ルグラン (Marcellin Legrand) が父型を彫ったもので、一八三七年に完成しています。この活字の特徴は二号と同じように「分合活字」のシステムを使っています。偏^{へん}旁^{わやう}の組み合わせだけでなく冠脚^{かんきやく}も別々に作っておいて組み合わせる一字を作ります。しかし冠脚の組み合わせの字はバランスが極端に悪く、

☆註八……蠟型電胎法 ウイリアム・ギャンブルが漢字活字制作のために採用した方法。欧米の方法は軟鉄に文字を逆字で凸刻し、それに熱を加えて硬度をましたのち銅の母型材に打ち込んで凹型の母型を作り、鋳型にはめ込みそこに活字合金を流し込んで活字をつくるが、この方法では画数の複雑な漢字を小さなサイズ上に彫るのが至難の業であった。ギャンブルは印刷所が上海に移転した早々に、活字の種子を金属材への彫刻から木材への彫刻に切り替えた。この結果複雑な漢字の彫刻が容易になり、完成度も上がり、かつ小型化が可能になった。凸刻された種子がある程度の量組版し、加熱して柔らかくなった蜜蠟・松脂・黒鉛の化合物に押し付け凹型を作る(蠟型という)。これに黒鉛を塗って伝導性をあたえ、ダニエル電池を応用した電槽に漬けて銅を集積して凸型を作る。それを再び電槽に漬けて凹型を作り(シェル Shell あるいはガラハ Galvanograph という)、裏に亜鉛を流し込んで強度を高めたうえで銅の母型材にはめこむ。これが電胎母型である。この母型を活字鑄造機の鑄型にはめこみ、溶解した鉛・錫・アンチモンの三元合金を流し込んで活字を作る。蠟型電胎法は、母型の製造がベントン機械彫刻機に取って代わられたあと急速に衰退し、技術の記録もされずまた経験者の死亡・消滅などもあって完全に失われてしまったが、昨年(二〇〇三年)株式会社社モリサワなどの努力で復元に成功した。

☆註九……偏旁冠脚 漢字構成部分の名称。偏(へん)は左右構成の左の部分で、「彳偏」「糸偏」など。旁(わやう)は左右構成の右側の字形。冠(かんむり)は上下構成の上にくるもので、「宀冠」「艹冠」など。脚(あし)は上下構成の下の字形で、「思」の「心」など。

★**図三**……二種類以上の二号活字を一冊の本の中で使った例。第四十丁までは分合活字のシステムを使った古い活字で、第一行目「殿他換錢」が偏旁の分合活字である。それが分合活字か探してみよう。第四十一丁目以降は新刻の活字。新旧の違いは一目でわかる。ただし第四十丁目までにも新刻活字が使われており、使い分けの理由が何であったかわからない。上海美華書館が一八七〇年に印刷刊行した「耶穌降世伝」【一〇二頁参照】

★**図四**……偏旁冠脚の分合システムで作られた三号活字。上下合成、つまり冠脚の合成の字がどれかわかるだろうか。ヒントは「艸」「冠」「竹」冠下にくる「心」特に「竹」冠の合成は上下のズレがひどく、中国人に嫌われた。この本は上海美華書館が一八六三(文久三)年に印刷刊行した「旧約全書」【二二頁参照】

穌走進神之殿內，趕逐其中做買賣交易者，還他兌換銅錢之桌几，出賣鴿子之木椅，曰：書記有之，我之房室，必稱爲祈求禱告之房室，爾之曹輩，竟以爲竊盜之窠巢也。有盲目者，跛脚者，來於殿上，近就耶穌，耶穌醫治之，祭司衆頭目，及讀書士子，看見其所行，特覺怪異，又看見童子呼喚於殿上，曰：大關之裔孫，萬分福氣歟，因此憾恨之，告語耶穌曰：若人之所說者，爾豈不曾聽得乎？耶穌曰：是然，經云：以童子吃乳之口，完全周備，而來讚美，卽此言語，爾豈未曾讀乎？遂離去之，走出城，到伯大尼，遂住宿焉。○明日清早，復走入城，耶穌饑餓，於道路傍邊，看見無花果樹，近就之，無菓子可得，獨有樹

耶穌降世傳

四十

葉而已，卽告樹曰：爾樹之菓，將永遠不再結，其樹卽枯槁，及門徒弟看見，而奇怪之，曰：此無花果樹，何以枯槁如此快也？耶穌曰：我誠實告爾，爾有真信，絕不疑惑，不獨於此樹，能使之行之，雖命此座山，搬移過去，投落於海，亦竟能焉。凡祈求禱告時候，不論有何求請，但有真信，則必得之。○耶穌走入殿

說由於人，我又恐怕百姓，蓋當時百姓皆以約翰爲先知也。遂對答曰：此不可知也。耶穌曰：則吾亦不以何等權柄得行如是，告訴於爾，如人有二個兒子，告其年紀大者曰：兒子，今天要到葡萄園裡，趕工作事，對答以爲不可，而後來懊悔，則仍往園裡去，及命其次兒子，亦是如此，却對答曰：主，我當應諾，既而竟不到園裡去，此在爾之意思，以爲何如，二人者，孰可謂遵從父之旨意乎？曰：是長兒子。耶穌曰：我誠實告爾，收稅之吏，娼妓之女，已先乎爾，入於神之國矣。蓋約翰用道義來暱就爾，爾不肯信，而收稅之吏，娼妓之女，反能信之，且爾既得見此，又不肯後來懊悔，以聽信之，請又聽說一譬喻，如

耶穌降世傳

四十一

有家主，種成葡萄園，以籬笆圍環之，中間挖掘酒窖，建造高臺，放租與田夫，遂到別處地方去，及結成菓子時候，差遣奴僕，走就田夫，要收菓子，田夫反捉住其奴僕，打其一，殺其一，用石敲擊其一，及又差遣別個奴僕，比較前次來人，尤多，田夫待之，如前一様，後竟差遣其兒子，想必俯敬我兒子矣，田

以賽亞書

第二十章 亞摩士子以賽亞所見之默示也。其言乃論及猶太與耶路撒冷。當猶太國王烏西亞約坦亞哈士希西家之時。見之。天乎聽哉。地乎傾耳哉。默言者耶和華也。乃言曰。我曾育子。而子逆我。牛識其主。驢識其主之槽。惟以色列無知也。我民不悟也。嗟乎。干罪之國。負咎之民。行惡者之裔。自壞之嗣。彼會棄耶和華。彼會侮慢以色列之聖一者。會退而離之矣。何處可復撻爾曹乎。爾愈悖逆也。徧首已患疾。全心已困憊。由足之跖。迄首之頂。毫無痊處。惟有傷損腐潰。創痕而已。未合之。未束之。未以膏柔之。爾國已荒蕪。爾邑已被火焚。爾土地遠人吞之於爾前。則成爲荒蕪。猶爲遠人所敗壞者。郇之女遺焉。如葡萄園之廬。如王瓜圃之舍。如被環攻之城。若萬軍之耶和華不爲我儕遺存少許。則我儕必似所多馬。我儕必似蛾摩拉矣。○所多

舊約全書

第廿三卷

以賽亞書

第一章

一

馬之有司。歟。爾宜聽耶和華之言。蛾摩拉之民。歟。爾宜傾耳聽我儕之神之律法。耶和華云。爾豐獻祭物於我。何爲哉。所獲牡羊之燔祭。與特畜之牲之膏。我厭之。牡犢之血。及羔與牡山羊之血。我不悅之。爾曹來我前。誰欲爾行之。而踐我院也。母復攜虛獻之禮物。我以馨香爲可憎之物。月朔。安息日。及召集會衆。亦爲可憎。我不容聖日兼於罪愆。爾之月朔。及爾定期之節筵。我心惡之。我視之爲重負。我倦

また画線も細く中国人にはとても不評でした。偏旁にしる冠脚にしるそれぞれの部分は組み合わせる形によって大小・長短・位置が変化するのが自然ですが、分合活字はそれらを単一化・固定化する他ないので、漢字使用国の人々にとっては「変な字！」と思われたとしても何の不思議もありませんね。

★四五 四号は一号と同じ人々によって同じ方法で同じ時期に作られました。小さいサイズでありながら字形の完成度は高く、ヨーロッパ各地やアメリカで使われましたので最初の漢字書体のインターナショナル・スタンダードといえることができるでしょう。この漢字書体を最後まで使っていたのはオランダで、一九七〇年のオランダの印刷会社の活字見本帳に載っています。やがてこの活字も他の新しい漢字書体に替わり、廃棄処分となりましたが、約八〇〇本だけが日本に回収され生き延びました。この活字は背番号が铸造された珍しいものですが、このお話は別の文章でお話ししましょう。

★四六 五号は世界で数多く作られた明朝体の中で最高峰ともいえる完成度です。二号と同じで木材に彫刻刀で彫った父型をもとに電気メッキ法で母型を作ったもので一八六四年に完成していました。もちろん文字の版下は中国人が書き、彫刻も中国人であったと思われませんが、このアイデアを出したのがウイリアム・ギャンブルでしたので、ギャンブルの名前だけが記録され版下師と彫刻師である中国人の名前は残っていません。

六号は詳細が不明ですが、制作者はリチャード・コールだろうと思えます。この活字は聖書の節を表すだけです。字種は多くありません。

明治二（一八六九）年十一月、活字制作と活字印刷の習得に悪戦苦闘する

★四五……明朝体活字初の国際書体である四号活字。軟鉄への原寸手彫りは画数が多い漢字の彫刻はむずかしいが、この書体はその困難を乗り越えた優秀書体といえる。漢字の右側に付いている節を示す数字は四・五ポイント相当である。
この本は上海美華書館から一八六四（元治元）年に印刷刊行した『路加伝福音書』。
〔二四頁参照〕

所說我祖者焉馬利亞。○夫以利沙伯
 產期已屆，乃生子。其鄰里親戚聞主大矜恤之，則皆樂越八日，衆至爲子
 行割禮，欲循其父之名，名之曰撒加利亞。其母答曰：不可，必名曰約翰。衆
 謂之曰：爾親戚中，無名此名者。衆遂以形示意於其父，問其欲以何名名
 之父。請簡書其名曰約翰。衆皆奇之，其口即啟而舌解，乃發言而頌美神。
 鄰里皆懼，此事遍揚於猶太之山地。聞者心藏之曰：此子將若何。主之手
 偕之矣。其父撒加利亞感於聖靈，言預言曰：可頌哉，主以色列之神也。蓋
 眷顧其名而贖之，爲我儕挺拯救之角於其僕大闢家。如主託古聖預言
 者之口所言，即救我脫於諸敵，及凡惡我者之手，以施矜恤於我祖。而記
 念其聖約，即與我祖亞伯拉罕所失之誓，謂將拯我於敵之手。俾我畢生
 在主前，以聖以義，無懼而事之。兒乎，爾將稱至上者之預言者，蓋爾將先
 主而行，以備其路，示其民知拯救，即其罪之得赦，賴吾神之矜恤也。以之
 而使旭日自上臨我，俾照夫居幽暗及死之陰翳者，導我足履平康之路。
 其子漸長，精力強健，居野，至顯於以色列之日。
 猶太至大闢之邑，名伯利恆，蓋彼屬大闢宗族也。彼偕所聘之妻馬利亞，
 利亞方伯，此籍始行焉。衆往登籍，各歸己邑。約瑟亦由加利利，拿撒勒上
 猶太至大闢之邑，名伯利恆，蓋彼屬大闢宗族也。彼偕所聘之妻馬利亞，
 登籍時，馬利亞已孕。適在彼處，時已屆，遂生冢子，裹之以布，寢之於槽。因
 客舍無隙處，故也。○在斯地，有牧羊者居於野，夜間守其羣，主之使者臨
 之，主之榮光環照之。牧者大懼，天使謂之曰：毋懼，我報爾以大喜之嘉音，
 關乎衆民者也。今日於大闢之邑，爲爾生一救者，即主也。基督也。以此與
 爾爲徵。爾將見一嬰兒，裹於布，寢於槽。爾可以此爲號矣。俟有衆天軍，偕
 天使讚美神曰：在上則榮歸於神，在地則和平。人沐恩澤矣。天使離之昇
 天。牧者相語曰：我可往至伯利恆，觀此所遇之事。主所示我者，遂亟往見。

創世記

創世記 元始時、神創造天地。地乃虛曠、淵面晦冥、神之靈覆育於水面。神曰、宜有光、即有光焉。神觀光爲善、神遂分光暗。神名光者曰晝、暗者曰夜。有夕有朝、是乃元日。○神曰、水中宜有穹蒼、以分上下之水。神遂作穹蒼、使穹蒼以上之水、與穹蒼以下之水、截然中斷。於是、有如此。神名穹蒼曰天、有夕有朝、是乃二日。○神曰、天下之水、宜匯一區、使現乾土。於是、有如此。神名乾土曰地、水匯曰海。神觀之爲善。神曰、地宜萌蘗、蔬結、樹生果、果懷核、從其類於地。於是、有如此。地遂萌蘗、蔬結、樹生果、果懷核、亦從其類。神觀之爲善。有夕有朝、是乃三日。○神曰、天之穹蒼、宜有列光、俾分晝夜。又爲時、日年之號。及由天之穹蒼、以照夫地。於是、有如此。神造二巨光、大者司晝、小者司夜。又造衆星。神置之於天之穹蒼、以照夫地。俾司晝夜、分光暗。神觀之爲善。有夕有朝、是乃四日。○神曰、水宜滋產、有生諸動物。又鳥可飛於地上、展穹蒼。神乃造巨魚、與水所滋產、有生諸動物、各從其類。以及飛鳥、亦從其類。神觀之爲善。神祝之曰、既庶既蕃、元初於海、鳥亦蕃息於地。有夕有朝、是乃五日。○神曰、地宜產有生諸物、從其類。牲畜、昆蟲、及野之獸、各從其類。於是、有如此。神乃造野之獸、從其類。牲畜、從其類。昆蟲、亦從其類。

舊約全書 第一卷 創世記 第一章

舊約全書 第一卷 創世記 第二章

類、神觀之爲善。神曰、我備宜造人、肖我備之像。俾治海魚、飛鳥、牲畜、亦治乎地、及圃地、昆蟲。神乃依己像造人、造之肖神之像。且造之男女焉。神祝之、又謂之曰、生育衆多、滿盈於地、爾克治之、並治海魚、飛鳥、及地上有生諸動物。神曰、視哉、遍地結莖之蔬、懷核之樹果、我賜爾以爲食。至於地之獸、天空之鳥、及圃地諸生物、則賜以青草爲食。於是、有如此。神觀所造者甚善。有夕有朝、是乃六日。○神曰、夫如是、天地及其衆羣、咸備。至第七日、神已竣所造之工。神竣所造於七日、乃安息。因是日、神息其所造諸工、而自安。故祝七日爲聖日。創造天地、其略如左。○耶和華神創造天地之日、維時、土未生、草木未茁、諸蔬、因耶和華神未降雨於地、亦未有人耕田。惟霧由地起、遍潤厥土。耶和華神以地塵造人、噓生氣入其鼻、而人成爲生靈。耶和華神樹園於東方之埃田、以所造之人、置諸其間。耶和華神使可觀、可食諸樹、由地發生。當園之中、有生生命之樹、又有別善惡之樹。埃田有河、流出以灌其園。由彼派分爲四。一曰比遜、濬洄於哈腓拉四方。其地產金。其金最精、亦產珍珠。二曰皮遜、濬洄於古實四方。三日希底結、流於亞述東。四曰幼發拉底、和華神掣其人、置於埃田園、以耕守之。耶和華神諭其人曰、園中諸樹之果、爾可任意以食、惟別善惡樹、爾不可食。食之日、必死。○耶和華神又曰、人獨處

★圖六……軟鉄への彫刻をやめ、木材への彫刻に切りかえたことで、小型化と完成度を同時にクリアした五号活字。この活字が本文用サイズとして定着することで、中国・日本のタイポグラフィが確立したが、日本においてはこの五号書体にくりかえし改刻洗練を加え、今日の明朝体へ発展させた。
この本は五号活字の使用例としては最初期のものといえる。上海美華書館から一八六五（慶応元）年に印刷刊行した「旧約全書」。

長崎の元阿蘭陀通詞本木昌造は、ウイリアム・ギャンブルを長崎に招聘します。この年の一〇月美華書館の館長を辞任したギャンブルは美華書館所有の印刷機を含む印刷機材と活字および鑄造機材を携えて来日し、翌明治三年三月までの四ヵ月間日本人に活字鑄造法と印刷術を教えます。『教会新報』によれば滞在期間中に活字母型三セット（漢字・仮名）を作り、英和辞典の印刷を試みたようです。これらの活字は美華書館が保有しているもの、つまり『教会新報』に掲載された広告の活字そのものであったと思われるものです。本木昌造が講習のあと作った「崎陽新塾活字製造所」の活字見本（明治五年）を組んでいる活字は、美華書館の活字サイズと字形がまったく同じであることがそれを物語っています。ギャンブルが帯同してきた機材の購入費用は四、〇〇〇ドルであったといわれていますが、講習後も美華書館から活字を買い続けそれを複製していったものと思われる。ギャンブルの講習に参加した人々はこののち二つに分かれ、一つはのちに築地活版製造所に発展し、他方は大蔵省印刷局の基礎を作ります。築地活版製造所については稿を改めます。日本の明朝体の歴史はこの四ヵ月の講習とその後の複製から始まったのです。

◎組版仕様

書体=ヒラギノ明朝 Pro W3 (漢字・欧文・アラビア数字)+築地体前期五号仮名(仮名・約物)「日本の活字書体名作精選」より

見出し=サインズ：60 級/本文=サインズ：16 級 字送り：20 歳 行送り：30 歳 1 行：36 字詰め・22 行

脚註=サインズ：10 級 字送り：10 歳 行送り：13 歳 1 行：21 字詰め・50 行

◎発行=大日本スクリーン製造株式会社 ◎デザイン=組版=向井裕一 (dypn)

(2005.03.18)

☆註一〇……活字見本帳 活字販売会社が発行する活字見本と注文書をかねた小冊子。所有する総ての活字書体を少ない文字で見せる総合見本帳と、ある一定のサイズの総ての文字を収録した総数見本帳の二つがある。金属活字時代ではこの二種が発行されていたが、写植書体・デジタルフォントでは総合見本帳だけで、総数見本帳は今までに発行されたことがほとんどない。大日本スクリーン製造は千部フォントライブラリーの『書体総覧』を総数見本帳と総合見本帳を統合した編集で刊行（『書体総覧』一）明朝体・行書体編『書体総覧』二）ゴシック体編）。

★図七……明治五年一〇月刊行の『新聞雑誌』第六十六号付録に一丁差し込まれた本木昌造の崎陽新塾製造活字目録。初号は木活字、三号の楷書・行書は日本製だが、一・二・三・四・五・七号の明朝体は上海美華書館の活字の完全なコピーである。この目録では「号」が活字サイズの呼称として使われていることに注目したい。また、美華書館の六号を一つの七号とし、五号の下に新しいサイズの六号を作る計画を持っていることがわかる。【二七頁参照】

参考文献・関連書籍

- 『日本の近代活字 本木昌造とその周辺』近代印刷活字文化保存会、二〇〇三年
- 『本で活字の歴史事典』柏書房、二〇〇〇年
- 『明朝活字』その歴史を現状』平凡社、一九七六年
- 『季刊プリント』印刷出版研究所、一九六二年

